



九国の扉

キュウトビ

vol.24

2026

学校法人九州国際大学
学園広報誌



未来の答えは
まだなくていい。
見つけるための
出会いと挑戦が
ここにある。

未来へ続く物語は、 出会いと 挑戦から始まる。

AIをはじめとするテクノロジーの進化によって、社会はかつてないスピードで変化しています。10年後、どんな仕事が生まれ、どんな力が求められているのか。その未来を、誰も正確に予測することはできません。だからこそ大切なのは、自ら未来を切り拓く力。その力は、人との出会いや新たな挑戦によって育まれていきます。未来へのヒントは、特別な場所にあるわけではありません。地域とのつながりや、日々の学びと経験の積み重ねのなかに、その可能性は息づいています。

夢に向かって努力を重ねる中学生。多様な出会いを通して進路を描く高校生。挑戦を重ねながら成長する大学生。歩む道は違っても、未来へ向かうそれぞれの物語は続いています。九国はこれからも、出会いと挑戦が生まれる場として、自らも挑戦と進化を続けながら、一人ひとりの未来の物語を全力で応援していきます。

ESTABLISHMENT OF A NEW DEPARTMENT

2027年4月

九州国際大学

看護学部看護学科新設

How to Create Your Future.

「未来」を紡ぐ4人の物語

ひとくちに「未来」といっても、成長のステージによって必要な支援や環境は異なります。九国ならではの豊かな出会いと多彩なプログラムを通してそれぞれの未来に向かって歩む4人の現役生を紹介します。



Junior High School

Know Your Passion!

夢を見つけて、一歩踏み出す

九州国際大学
附属中学校 3年
徳永さん

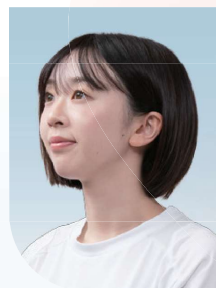


High School

Imagine Your Possibilities!

世界に触れて、
なりたい自分を描く

九州国際大学 九州国際大学
附属高校 3年 附属高校 3年
谷口さん 福元さん



University

Unlock Your Potential!

学びを力に、未来を切り拓く

九州国際大学
現代ビジネス学部 4年
地域経済学科 経営コース
上野さん

INDEX

特別対談	02・03
Know Your Passion! 〈中学校〉	04・05
Imagine Your Possibilities! 〈高校〉	06・07
Unlock Your Potential! 〈大学〉	08・09
キューヒト探訪 vol.8	10
九国生たちの熱い戦い(クラブ&サークル活動の記録)	11
キャンパスレポート	12・13
学校法人九州国際大学 令和7年度決算報告	14~17



Profile
九州国際大学
学長
川脇 慎也
Shinya Kawawaki

専門は経済学。九州国際大学大学院経済学府博士後期課程単位取得満期退学後、同大学院経済学研究助教授、専門研究員を歴任。在職中に九州産業大学大学院博士後期課程を修了し、博士(経済学)取得。2018年に九州国際大学現代ビジネス学部に着任し、2024年より教授。2026年9月より現職。



「地域とともに育む実践的な学び」川脇「学生を社会に送り出すうえで、私たちが大切にしていくもののひとつが、社会人基礎力です。コミュニケーション能力や主体性、行動力といった活躍するための土台となる力です。人間力も先ええるものです。実際に、就職先の企業の方から、本学の卒業生を評価する声をいただくことも少なくありません。もうひとつは、地域を起点に社会や世界とつながるための力です。地方の中小企業では、限られた人員のなかで海外取引に対応しているケースも多く、国際法務体制の整備が課題と

なっています。そこで、各国の法制度や商習慣を学び、国際的な視点から地域企業のニーズに応えられる人材を育てていきたいと考えています。あわせて、地域の皆さまとともに積み重ねてきた実践を世界に発信し、そこで得た評価や新たな視点を再び地域に還元する。地域と世界をつなぐ循環を生み出すことも、これからの九国の役割だと思っています。本学では各学部・学科で、地域と連携した実践的なゼミ教育を展開しています。さらに、学内には地域と大学の協働を促進する仕組みを整え、地域と大学、そして学生がともに学び

合う場が広がっています。こうした取り組みを通して、それぞれの専門性を活かした実践が育まれています。山勢「地域に根ざした学びは、看護学部においても非常に重要だと考えています。看護学部での学びは、将来の進路を看護師に限定するものではありません。こうした進路の広がりには大学ならではのことであり、多様なキャリアを選択できることが、大学で看護を学ぶ大きな魅力のひとつです。看護師を目指す場合も、看護の学びを活かして一般企業に就職する場合も、社会から必要とされ、信頼される人材へと成長

することが大切です。そのため、看護学部の学生にも地域の風土や産業、文化、生活習慣への理解を深めてほしいと思います。また、他学部との合同授業やキャリアデザイン講座などを通して、多様な職業観に触れてほしいですね。そうした学びによって幅広い視野が培われ、看護や地域医療への理解がさらに深まると期待しています。川脇「看護学部の学生にも、他学部と同様に地域について学ぶカリキュラムを用意する予定です。すべての学部で『地域視点』を大切にしながら実践的な教育を展開し、地域に欠かせない人材を育てていきたいと考えています。

Special Interview 特別対談

九州国際大学 学長
九州国際大学 看護学部長

新たな九国の挑戦。 地域とともに、 未来を切り拓く人材を育てる。

今秋就任した川脇学長と、来春開設予定の看護学部で初代学部長を務める山勢氏に、九州国際大学が目指す教育の姿や、九国生に期待することについてお話しいただきました。



※完成イメージ

出会いと挑戦が成長を生む

川脇「私自身の学生時代を振り返っても、1年生や2年生の段階で将来を具体的に描くのは簡単ではありません。大きな転機のひとつは、地域での実践やインターンシップ、そして就職活動ではないでしょうか。就職活動では、その分野の第一線で活躍する方々や先輩、人事担当者など、多くの人との出会いがあります。そうした経験を重ねる中で、学生は大きく成長し、卒業する頃には社会人としての自覚と自信を身につけて新たなステージへと踏み出していきます。」

山勢「これまでの経験を振り返ると、看護学部でも、学年が上がるにつれて学生たちの表情や姿勢が大きく変わって

くことを実感してきました。

入学時の学力や経験はさまざまです。しかし卒業する頃には、それぞれが大きく成長し、自信をもって学業を修め、社会で活躍する人材として羽ばたいていきます。その成長ぶりは目覚ましいものがあります。その成長を支えているのは何でしょうか。私は「社会との出会い」だと感じています。長期間の実習を通して地域の方々と関わり、多くの課題に向き合いながら挑戦する経験が、学生たちの成長を大きく促します。だからこそ、卒業後は、地域社会に貢献することで、これまで支えてくださった方々へ恩返しをしてほしいと思います。

挑戦を支える

「失敗から学べる環境」川脇「社会に出れば、失敗や困

難を自ら乗り越えていくことが求められます。しかし大学には、教職員の支えのもとで安心して挑戦し、失敗から学べる環境があります。その環境を存分に活用し、自ら一歩踏み出す経験を積み重ねてほしいと思います。そして、それは学生だけの話ではありません。大学自身が挑戦を続けてこそ、学生の挑戦を支えることができます。私は考えています。

山勢「私も「挑戦」という言葉を大切にしています。看護学部の立ち上げにあたっては、地域のニーズを踏まえ、一日でも早い開設を目指しました。限られた準備期間でどうすれば実現できるのかを考え、多くの方々の力をお借りしながら、これまでの経験の集大成ともいえる挑戦として取り組んできました。

その挑戦は今も続いています。これから学生や地域の方々とともに、新たな看護学部そして未来の九州国際大学を創り上げていく段階です。九国生の皆さんには、まだ世の中にないことや、難しいと思われることにも果敢に挑戦してほしいと思います。

川脇「出会いと挑戦を通じて、人は飛躍的に成長します。九州国際大学はこれからも地域とともに歩み、九国生一人ひとりの挑戦を支える学びの場であり続けます。そして、八幡で育まれた実践を世界に届け、世界から受け取った知見を八幡に還元していきます。九国での出会いと挑戦を力に変えながら、地域の未来と自分自身の未来をともに切り拓いていきたいと思います。」

いていきたいと思います。」



Profile
九州国際大学
看護学部長 予定者
山勢 善江
Yoshie Yamase

専門は成人看護学(急性期看護)。聖路加看護大学卒業。聖路加看護大学大学院博士前期課程修了、山口大学大学院博士後期課程修了。多数の学会に所属するとともに、日本救急看護学会理事を務める。日本赤十字九州国際看護大学、湘南医療大学教授等を経て2027年開設の九州国際大学看護学部長に就任予定。

九国のキャリア支援

中学編

●付属中学校の合言葉は「K点突破!!」

心の中の限界点=K点を越えた可能性に向かって挑戦することです。

Q. 中学生に「キャリア」ってまだ早いのでは?

A. 中学校では「進路指導」「教科指導」に加え、様々な「体験学習」を通して社会の中での視野と自分の可能性を広げる幅広い取り組みを行っています。

主なプログラム

プログラム名	学年	内容
宿泊体験学習	1年生	九国チャレンジ教室: 3日間の共同生活を通して協調性・積極性・責任感を育みます。
	2年生	古都探訪教室: 日本の歴史や文化に触れ、国際人としての素養を育みます。
	3年生	海外体験教室: 異文化交流を通して英語力や国際的な視野・見識を育みます。
シリーズ授業	2年生	「未来を創る人」に必要な生きる力の習得を目指し、文理の領域を越えた知識や思考力、真理を追究力を培います。
自分発表会	3年生	進路が決定した3年生が、自分の好きなものや好きなこと、興味のあることなどを調べ、プレゼンテーションを行います。発表会には、翌年度4月から新入生を受け持つ付属高校の教員も参加します。

Q. 進路指導はいつから始まるのですか?

A. 本格化するのは3年生1学期の3者面談以降です。離別私立高校(九国の離別コース)や、県立高校など、生徒と保護者のニーズをふまえながら進路指導を行っています。

Q. 進路実現に向けての具体的な内容は?

A. 基礎の定着から受験に向けた実践力まで、週1テスト・ACT・PETを組み合わせながら、学力を伸ばします。



週1テスト

- 前の週に学習した内容から出題
- 1年生から3年生まで5教科で毎朝実施



ACT アクティブ・トライ

- 答案作りの練習
- 定期考査で各教科ごとに実施



PET パーフェクト・トライ

- 5教科100問テストの形式
- 目的は基本の徹底的な定着
- 1年生2学期から3年生2学期までの各学期末に実施

夢への一步は、
今日の積み重ねから。
目標を超えるたび、
憧れの舞台が近づいてくる。



Know Your Passion!

夢を見つけて、
一歩踏み出す



九州国際大学付属中学校 3年
徳永さん



中学校公式HPはこちら!

Pick Up!

徳永さんの文武両立を支える KTN-To Doリスト



基礎知識を確実に定着、さらに、思考力や応用力を伸ばしながら、気がつく、しっかりと学習習慣が育まれています。

業で学んだA-Iも活用しながら、自分ひとりではたど

がら、バドミントンの夢に向かって進んでいきたいです。

夢に向かって、一歩ずつ前へ
小学生のときに親戚の影響で始めたバドミントン。すぐに夢中になり、今は部活で主将を務めています。高校でのインターハイや国体への出場を目指しながら、将来は世界最高の舞台であるオリンピックも視野に入れています。簡単にはかなう夢ではありませんが、目の前の大会やトレーニングの目標をひとつずつクリアしていくことで、いつか夢に近づけたらいいなと思っています。
主将になったことで、自分のことだけでなく、仲間を巻き込みながらチームのやる気を引き出す責任感が生まれました。また、洗濯や昼食づくり、掃除当番などを自分で行う寮生活を通して、「いつまでに何をすべきか」を考えながら行動する計画性も身につきました。さらに、付属高校の先輩方と交流する機会もあり、課題にぶつかったときの考え方や広い視野に触れ、大きな刺激を受けています。
自分に足りないものは何か、それをどう補えばいいのか。先輩や仲間との出会いから得た気づきや、時には授

りつけない学びを重ねる毎日です。
勉強と競技の共通点
1年生の頃は、正直なところ勉強に対して前向きな気持ちとは言えませんでした。しかし毎日の「週1テスト」や学期末に行われる「パーフェクト・トライ」に取り組み続けることで、今では習慣のように自然に勉強と向き合えるようになってきました。
毎朝6時からの朝練と、放課後約4時間の練習は決して楽ではありません。それでも、寮生活では夜9時過ぎから「スマホを手放す時間」があり、集中して学習に取り組んでいます。分からないことをそのままにする、と次に進めないのは、勉強もバドミントンと同じ。課題に向き合い、一つずつ克服していくことは、競技にも勉強にも共通していると感じています。
部活を頑張りたい人にとって、九国の環境はとても恵まれています。充実したトレーニング設備や整った体育館など、競技に打ち込める環境がそろっています。ずっと先の未来はまだ具体的に想像できていませんが、今はこの環境に感謝しながら、

九国のキャリア支援

高校編

大学進学はひとつの通過点、
学力以上に大切に育んでいるのは
自分で考え、判断して行動する「**自走力**」です。

Q. 高校の「キャリア教育」って どんなものですか？

A. 可能性や興味を狭めることなく、多彩な職業や国際感覚に触
れたり、大学視察や医学部学生向けの講座を通して、視野を
広げ未来を想像する力を高めます。

● 主なキャリア支援プログラム

大学視察



九州大学等などの視察を実施。
自分の目で確かめることで向
学心と受験意識を高めます。

多彩なグローバル教育



ディスカッション研修や姉妹校
との交流を通して国際感覚を
学ぶ教育環境を整えています。

職業体験



看護師・保育士等を目指す学生
に向けて、職場体験ができる
プログラムを実施しています。

文理・クラス選択 ガイダンス

経験豊かな教員が、進路選択
のポイントを1年次からわかり
やすく指導しています。

医療系進学対策講座

専門予備校の講師による講座
を開催し、近年医学部医学科へ
の合格実績が高まっています。

人体解剖見学

生命科学や医療分野を目指す学生
向けの人体解剖見学会では、人体
の構造と生命の尊さを学びます。

Q. 進路指導の特徴や具体的な内容は？

A. ① 教員数北九州市最多 生徒数と同じだけ教員も多いから、指導が行き届きます。

② 選択制課外授業 必修の課外授業をやめ、自分で決める「自走教育」へ。

③ 長期休暇中の学外勉強会 春・夏休み中に県内外の施設で学習会などを実施。

● 主な進路指導プログラム (令和7年実績)

プログラム	対象
文理選択と学問ガイダンス	1年生
文理選択のための学部学科説明会	1年生
校内進学説明会 (70大学招聘)	2・3年生
九州大学見学会	1年生
グループ討論講座	3年生
大学出前授業 (全21講座)	
医療系志望者向け講座	
共通テスト得点力向上セミナー	3年生
職業体験 (保育園・幼稚園・看護)	
学習会宿・学習会	
関東・関西大学見学会	
探九祭	



「ここは出会いと気づきの宝庫。
仲間との学びが
「なりたい自分」を明確にしていける。」

Imagine Your
Possibilities!

世界に触れて、
なりたい自分を描く

High
School



九州国際大学付属高校 3年
福元さん



九州国際大学付属高校 3年
谷口さん



高校公式HPはこちら!

将来のビジョンにつながる
多彩なプログラム

谷口：私の夢は、得意な英語
を活かして観光業に携わる
ことです。授業で観光地を
訪れて観光業の魅力を学ん
だり、留学生の優しさに触
れたりしたことで、目先の
大学合格だけではなく「自
分は将来どうありたいか」
という視野を持つようにな
りました。

福元：僕は小さい頃から医師
を目指しています。「九国カ
レー」の開発に挑戦したと
き、地域の方と関わりなが
ら、チームで創り上げるこ
の面白さを学びました。こ
の経験を通して、地域に貢献
する医療や、AIや技術者と連
携する医療を目指したいと
思うようになりました。

谷口：社会で活躍している先
輩のお話を聞ける「ようこそ先
輩プロジェクト」では、海外で
留学生をサポートしている先
輩の体験談から、自分の興味関
心を満たす仕事について深く
考えるようになりました。

福元：僕もさまざまな先輩の
お話を聞き、進路は最初から
決めつけるものではなく、経
験や人との出会いを通して
少しずつ形になっていくと
いうことを実感しました。

挑戦を後押ししてくれる
存在
福元：ここは性格も目標も
趣味も異なる生徒が集まる、

Pick Up!

2人に気づきをくれた 「ようこそ先輩 プロジェクト」



多方面で活躍する卒業生と
のつながりは貴重な財産。
先輩の経験談が将来像を
具体的に描ききっかけと
なります。

皆さんの仲間との時間を大
切にしながら「なりたい自
分」に向かって努力を続け
ていきたいです。

谷口：私も英作文の添削な
どにICTツールを活用し
ています。自習でも効率的
に学習を進められるので、
学校の理念である「自走」を
実践しやすい環境が整って
いると感じています。

谷口：これからは先生方の
力を借りながら、そしてた

だいたいです。
福元：進路や学習のサポート
も充実しています。特にICT
教育は他校と比べても進ん
でいると感じます。学習に活
用できるAIツールも充実
していて、自分に合った方
法で学びを深めることがで
きます。

谷口：周りにたくさんさんの仲
間がいると感じられること
で、受験勉強への不安も前
向きな気持ちに変えられま
すよね。先生方も「高校は義
務教育ではないからこそ、
自分の将来につながる学び
を大切にしてほしい」と、い

九州有数のマンモス校です。
生徒数が多いからこそ、自分
に合う仲間や目標にしたい
人と出会えます。自分には
ない価値観や考え方を学ぶ
ことができます。この活気や
楽しさは、九国ならではの魅
力だと思っています。

そこが知りたい!

九国のキャリア支援 大学編

5年連続上昇中の就職率「99.1%」

圧倒的な実績を支えるのは
「ひとりひとりに寄り添う伴走型支援」。

進化する支援体制

一人ひとりに寄り添う担当制

学科別の「伴走型」個別支援

法学部、地域経済学科、国際社会学科それぞれに、キャリア支援室の専任担当職員を配置。学生からのアクションを待つだけではなく、担当者から学生へ直接連絡し、「就活に願っている」「何をしたらいいかわからない」など、それぞれの進捗や心状態に合わせた「伴走型支援」を行っています。

支援内容

履歴書・エントリーシートの添削、面接練習はもちろん、就活中のメンタル面での悩み相談、その学生に合った企業紹介まで多岐に対応

専門性の高い常駐支援 就職なんでも相談＋公務員就職サポートセンター

	就職なんでも相談	公務員サポートセンター
体制	国家資格「キャリアコンサルタント」を保有したプロのアドバイザーが常駐	麻生公務員専門学校の専門スタッフが週に2回常駐
支援内容	ES・履歴書添削、面接練習、自己分析だけでなく、「何から手をつけばいいのかわからない」「そもそも自分は就職できるのか」という根本的な不安にも伴走	面接カードの添削、論文添削、面接練習、受験先の選定から、効率的な「自宅学習のコツ」まで、専門学校のノウハウを惜しみなく伝授

ここを利用した学生の
進路決定率は「100%」

手軽に相談・手続きのデジタル化 公式LINEの活用

進路決定届はLINEからサクッと提出可能!

- ✓ 2025年度は330名が利用
- ✓ 今年度 3か月間ですでに77名の学生が利用
- ✓ 「提出の手間が劇的に減った」と学生からも好評



本校独自の支援 企業と学生のマッチングセミナー

概要	4年生を対象とした 学内開催の「選考一休型ミニ合同説明会」
実績	最高内定獲得率は80%! 参加者の半数がこのイベントから内定を獲得
強み	1日4社の説明会を開き、 その日のうちに2社の「1次選考」まで進める画期的なシステム
参加企業からの声	「学内イベントに多く参加したが、こんなイベントは初めて」 「その場で一次選考通過を伝えたいくなるほど 素敵な学生に出会えて満足」 「お互いに面接で良い部分を掘り出し合える、素晴らしい機会」

勉強も部活も学外活動も、
自分らしく挑戦した4年間。
出会いと成長が照らす、
私の未来。



Unlock Your Potential!

学びを力に、
未来を切り拓く



九州国際大学 現代ビジネス学部
地域経済学科 経営コース
上野さん



大学公式HPはこちら!

Pick Up! 上野さんならではの挑戦 バスケット部を 多方面からサポート



一般的なマネージャーの役割にとどまらず、選手経験を生かして練習相手や相談役を務めるとともに、選手と監督をつなぐ橋渡し役としてチームを支え、17年ぶりのインカレ出場に貢献しました。

活かして一人ひとりに寄り添える教員になりたいです。

な未来を思い描くと、今からとても楽しみです。

高校までは選手としてバスケットボールに打ち込んでいたが、大学では「支える立場」に挑戦したいと考え、男子バスケットボール部のマネージャーを務めた。自分ができることは何かを常に考えながら行動を続けた結果、チームは17年ぶりにインカレ出場を果たしました。その喜びをチームの一員として分かち合えたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。

また、九州大学バスケットボール連盟の委員として学外活動にも挑戦し、要望の取りまとめや他大学との調整・運営に携わりました。さまざまな立場の人と関わる中で、多様な視点や考え方に触れ、成長できたと感じています。

学内外での活動を通して、多くの出会いと学びに恵まれました。将来は教員として子どもたちの成長を支えることが目標です。卒業後はすぐに教壇に立つのではなく、まずは異なる立場から子どもたちと関わる経験を積みたいと考えています。多様な価値観に触れながら自分自身も成長を続け、その経験を

「やってみよう」の精神が根付く九国で、私は多くの人と出会いました。その中で人のために努力することや相手の気持ちをくみ取るこそ、教員という夢を持つことができました。10年後、子どもたちに寄り添える先生になれているだろうか。そんな未来を思い描くと、今からとても楽しみです。

プレーヤーからサポーターへ。
新たな挑戦で得た学び

夢を育てた「やってみよう」の精神

オープンキャンパスに参加した時から、九国にはどんなことでも「やってみよう」という前向きな雰囲気があると感じていました。そんな環境だからこそ、私は経営について学びながら、大好きなバスケットボールを通して多くの経験を積み、挑戦を続けることができたのだと思います。

九国は、1年生からキャリアに関する授業があり、就職活動のイベントやサポーターも充実しています。また、困ったときには気軽に相談できる環境が整っていることも大きな魅力です。そして何より、先生方がどんなときでも学生一人ひとりに寄り添い、温かく見守ってくださっていることを実感しています。

キ ュ ウ ヒ ト 探 訪

Interview

VOL
8

九国での学びが、 地域と未来を動かす原動力。

卒業後の今も続く、恩師や友人とのつながり。そして地域での実践的な学びを通して、一歩ずつ志を形にしてきた赤星さん。北九州市役所への就職はゴールではなく、新たな物語のスタート地点。北九州市の未来を創ることが、赤星さん自身の未来にもつながっています。

九州国際大学 法学部 法学科
リスクマネジメントコース卒業
北九州市
八幡西区役所 保護第二課
赤星 朋泰さん

小さなきつかけを 大きな志に

高校生の頃に芽生えた「法律」への関心が、九国のオープンキャンパスに参加したきっかけでした。法学部の模擬授業を受け、「法律っておもしろい！」と感動したことを今でも鮮明に覚えています。進路や学生生活への手厚いサポートも、九国への入学を決めた理由のひとつでした。

地域での学びが、 未来への道標に

九国は、「ゼミの九国」と言われるほどゼミ活動が充実しています。私が所属していたのは、「地域の持続可能性を考える」をテーマとするゼミ。授業や学外活動を通して地域へ足を運び、地域の方々と交流する機会が数多くありました。

私は北九州市出身ではありませんが、地域について学び、人と関わる中で北九州の魅力に惹かれるようになりました。そして、「このまちの未来のために働きたい」という思いから、北九州市役所を志望しました。

仲間と支え合いながら 挑んだ就職活動

私の就職活動を支えてくれたのは、同じ目標に向かって努力する仲間の存在です。ゼミや公務員講座の仲間と情報交換や相談を重ねながら、互いに励ましました。前向きに取り組むことができました。

北九州の未来のために 学び続ける

就職が決まった後も、恩師の力を借りてさまざまな地域に足を運び、地域ごとの課題や取り組みについて学びを深めました。入職して約半年、一人前の職員を目指して目の前の仕事を覚

えることに必死の毎日ですが、とてもやりがいを感じています。これまでの学びや経験を一つずつ仕事に活かしながら、北九州の未来づくりに貢献できる職員を目指したいです。

Pick Up! 後輩たちへのメッセージ



九国には、挑戦を後押ししてくれる先生や仲間、学びの機会がたくさんあります。地域での実践的な学びや多くの人との出会いは、自分の可能性を広げてくれました。ぜひ積極的にさまざまな経験に挑戦し、自分らしい未来への一步を踏み出してください。



University

日本新記録
樹立!

長島 和奏さんが見事優勝 世界へ羽ばたく九国大生

ウエイトリフティング部所属の長島和奏さん(現代ビジネス学部国際社会学科3年)が第40回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会で日本新記録を樹立し、見事優勝を果たしました。この結果、長島さんはアジア競技大会および世界選手権大会の日本代表に選出されました。

これを受け、体育会主催の壮行会が学内で開催され、体育会所属の学生約280名と教職員がエールを送りました。世界選手権大会は、2028年ロサンゼルスオリンピックの代表選考レース初戦に位置付けられており、長島さんのさらなる活躍と飛躍が期待されます。



[サッカー部]

- ◎第50回 九州大学サッカートーナメント大会 / ベスト8
- ◎第8回 九州大学サッカー新人戦
グループリーグ **1位** (2勝1分)

[剣道部]

- ◎第71回 西日本学生剣道大会 / 男子団体ベスト16
- ◎第41回 西日本女子学生剣道大会 / 女子団体2回戦敗退

[ウエイトリフティング部]

- ◎第65回 西日本学生ウエイトリフティング選手権大会
 - 男子団体 / **1位**
 - 男子個人
 - 60kg級 / 5位 原田 祐牙(2年)
 - 65kg級 / 4位 馬渡 隼矢(1年)
 - 71kg級 / **1位** 田中 慧斗(1年)
 - 79kg級 / **1位** 山口 昂輝(4年)
 - 88kg級 / 5位 平井 広太(4年)
 - 94kg級 / **2位** 柳田 琉翔(2年)
 - 110kg級 / **1位** 安藤 周粋(3年) **2位** 藤原 菱(3年)
 - 5位 塚本 悠雅(2年)
- +110kg級 / **1位** 村田 一真(2年) **2位** 田中 元氣(4年)
- ◎第25回 西日本女子学生ウエイトリフティング選手権大会
 - 女子団体 4位
 - 女子個人
 - 69kg級 / **3位** 岩永 夢叶(2年)
 - 77kg級 / **2位** 下村 愛里(3年)
 - 86kg級 / **1位** 長島 和奏(3年) ※日本新記録

[硬式野球部]

- ◎令和8年度 九州六大学野球
春季リーグ戦 / 第4位 (4勝6敗)
- ベストナイン(捕手) / ノー瀧 颯(3年)
- ベストナイン(三塁手) / 菱岡 大恭(2年)

[バスケットボール部]

- ◎第32回 全九州大学バスケットボール
リーグ戦 / 総合4位
- ◎第77回 全日本大学バスケットボール
選手権大会 / グループリーグ **2位**



[バドミントン部]

- ◎令和8年度第80回 国民スポーツ大会
バドミントン競技福岡県予選会(成年の部)
 - 男子ダブルス / **3位** ●男子シングルス / **3位**、4位
- ◎第75回九州学生バドミントン選手権大会
 - 男子団体 / **優勝** ●男子ダブルスA / **優勝**、4位
 - 男子シングルスA / **優勝** ●男子ダブルスB / **3位**
 - 男子シングルスB / **準優勝** ●混合ダブルス / **準優勝**、4位
- ▶男子団体、男子ダブルス、男子シングルス、混合ダブルスで
インカレ出場決定

[陸上競技部]

- ◎第96回 九州学生陸上競技対校選手権大会
 - 男子1500m / 赤澤 諒一(4年) 4:23.74
/ 中山 来輝(1年) 4:43.78
 - 男子5000m / 永津 仁(3年) 16:34.57
/ 赤澤 諒一(4年) 16:47.99
- ◎第73回 北九州・下関地区大学体育大会陸上競技大会
 - 男子5000m / 赤澤 諒一(4年) 16:47.62
- ◎第76回 九州地区大学体育大会陸上競技大会
 - 男子1500m / 赤澤 諒一(4年) 4:24.63
/ 中山 来輝(1年) 4:50.79
 - 男子5000m / 永津 仁(3年) 17:06.43
/ 福本 遼祐(3年) 17:18.66
- [柔道部] (男子)
 - ◎九州学生柔道優勝大会
 - 2部決勝 / **準優勝** 九国大 3-4 日経大
 - 入替戦 / 九国大 1-2 宮産大

High School

[バドミントン部]

- ◎福岡県高等学校総合体育大会バドミントン
選手権大会兼 全九州高等学校体育大会予選・
全国高等学校総合体育大会予選
インターハイ出場
- 男子団体 **優勝**
(川上 翔太、岩見 健介、田中 佑和、山本 純太郎、
春木 暁太郎、牧野 隆希、飯倉 一翔、神谷 悠月)
- 女子団体 **準優勝**
(金生 七海、坂井 美向、永藤 輝音、前田 美桜、
向江 悠伽、大石 咲和、山下 空輝、竹林 あかり)



[体操部]

- ◎福岡県高等学校総合体育大会体操競技選手権大会
九州大会出場 / 男子団体 **2位**
(福田 海翔、石丸 齊聖、本林 晃汰、三浦 穂香)
九州大会出場 / 女子団体 **2位**
(下村 ちがや、宇野 心結、松崎 陽華)

インターハイ出場

- 男子個人総合 **2位** / 福田 海翔
種目別あん馬 2位 / 種目別つり輪 3位
種目別跳馬 3位 / 種目別鉄棒 2位
- 女子個人総合 **優勝** / 下村 ちがや
種目別跳馬 1位 / 種目別ゆか 1位
種目別段違い平行棒 1位
- ◎第17回 福岡県トランポリン競技選手権大会
・全国高等学校トランポリン競技選手権大会出場
高校生女子の部 **準優勝** / 有馬 由華

[陸上部]

- ◎第79回 全国高等学校陸上競技対校選手権大会
北九州地区予選会 インターハイ出場
男子800m 4位 / 岩崎 将三
女子400m 4位 / 谷本 真優
女子1500m **1位** / 橋本 和奈
女子3000m **3位** / 橋本 和奈
女子4×100mR 4位
(金元 美優、船津 莉央、神達 結衣、谷本 真優)
女子4×400mR **3位**
(神達 結衣、小田 和華、金元 美優、谷本 真優)

[水泳同好会]

- ◎福岡県高等学校体育連盟総合体育大会
水泳競技 選手権大会兼 全九州高等学校
水泳競技大会予選会
・九州大会出場
中村 地星 / 50m背泳ぎ **3位**

[サッカー部]

- ◎令和8年度 福岡県高等学校総合体育大会
サッカー競技大会
インターハイ出場 / **優勝**



Junior High School

[バドミントン部] 九州大会出場

私たちは全国制覇を目指して日々の練習に励んでいます。今年度、市内大会で団体戦準優勝、個人戦においてもシングルス・ダブルスともに好成績を収め、県大会に駒を進めました。また、個人戦ではダブルス(後藤・前田ペア)が九州大会出場を果たしました。今年度は他校の素晴らしい戦いぶりを目の当たりにし、頂点に立つ厳しさを改めて感じさせられた夏になりました。来年度は今年度の悔しさをばねに更に精神面・体力面を鍛える努力を重ね、悲願の全国制覇を目指して、今後感謝の気持ちを忘れず、日々の練習をがんばります。

◎第50回 北九州市中学校バドミントン大会

- 団体【女子】 **準優勝**
徳永 梨愛(3年)、後藤 愛梨(2年)、前田 和花(2年)、吉岡 瑞希(2年)、関 梨花(2年)
山根 結奈(1年)、叶木 彩也香(1年)、小山 結愛(1年)
- シングルス【女子】山根 結奈(1年) **優勝** 関 梨花(2年) **3位**
- ダブルス【女子】後藤 愛梨(2年)、前田 和花(2年) **優勝**
叶木 彩也香(1年)、小山 結愛(1年) **3位**

◎第47回 福岡県中学校バドミントン大会

- 団体【女子】 ベスト8
徳永 梨愛(3年)、後藤 愛梨(2年)、前田 和花(2年)、吉岡 瑞希(2年)、関 梨花(2年)、
山根 結奈(1年)、叶木 彩也香(1年)、小山 結愛(1年)
- シングルス【女子】山根 結奈(1年) ベスト8 関 梨花(2年) ベスト16
- ダブルス【女子】後藤 愛梨(2年)、前田 和花(2年) **3位**
叶木 彩也香(1年)、小山 結愛(1年) 出場

◎第55回 九州中学校バドミントン大会

- ダブルス【女子】
後藤 愛梨(2年)、前田 和花(2年) ベスト16





01 University

2026年度始動！法学部の新たな取り組み

「スーパー公務員養成プログラム」が 本格始動



スーパー公務員養成プログラムは、公務員として即戦力となる力を養うため、実務を意識した体験型学習や試験勉強の支援を、キャリア支援室・公務員就職サポートセンターと連携して実施するものです。今学期は正課授業2科目が開講され、公務員志望の学生を万全の体制で支援しています。

北九州市消防局と九国大・法学部の 地域課題解決プロジェクト



このプロジェクトでは、履修学生が報酬付きの非常勤地方公務員として、消防団員減少の原因究明や防災力向上などの課題解決に取り組めます。消防局職員のコーディネートのもと現場実習やインターンシップなどを実施し、学生の若く柔軟な発想と消防局の実践的な知見を掛け合わせることで、北九州市を安心して暮らせる街へ発展させることを目指します。消防団員の制服のサイズ合わせを行う学生の声は、期待と緊張からかいつも以上に弾んでいました。

学びを実践へ！現代ビジネス学部におけるゼミの活躍

福島ゼミ

海外旅行企画コンテストで 優秀賞 受賞



福島ゼミ3年のメンバー(グランフロント大阪にて)

(一社)日本旅行業協会主催の第17回関西空港発「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画コンテストで、福島ゼミが優秀賞を受賞しました。企画タイトルは「看護学生と視覚障害者のための海外旅行 Jamu Journey in BALI」。看護学生4名が視覚障害者2名をサポートしながら、飲む・塗る・蒸すといった方法で心身を整えるインドネシアの伝統医療「ジャムウ」を体験するインクルーシブツアーです。

山本ゼミ

付属中学校で 「歌舞伎イベント」の出張開催



写真：一般社団法人日本伝統文化未来機構

現代ビジネス学部山本ゼミは、地域連携協定先のイオンモール八幡東と共催で「体感できる！地元 de 歌舞伎体験」を実施しました。初日は「歌舞伎にかぶりつき in 九国」と銘打ち、付属中学校で行われ、生徒たちはツケ打ち・隈取等の体験を通じて歌舞伎に親しみました。講師の松浦光氏の歌舞伎の軽妙な解説に笑い声も起きつつ和やかに進み、締めくくりに舞踊(三番叟)では、会場がほどよく引き締まり、伝統芸能の奥深さを感じる機会となりました。

02 High School

咲橋祭・体育祭が
盛大に行われました！



本年度は1学期のなかで高校の二大イベントである咲橋祭(文化祭)が6/5・6(金・土)に、体育祭が7/8(水)に執り行われました。お借りする体育館の都合で2学期に借りることが出来なかったためです。生徒たちは、中間考査、期末考査の勉強の合間を縫うように時間を作り、咲橋祭のクラス企画を考え、体育大会のブロック練習の準備をし、本当にタイトなスケジュールの中で短時間ながらよく準備をし本番を楽しみました。

新たに通信制課程が
スタートしました



本年度より付属高校では、新たに通信制のコースを始めました。近年の生徒の多様化に伴い新たな取り組みとして発足しました。これにより、様々な事情を抱えた生徒の受け入れが可能となり、地域の高校進学への機会確保に貢献できると考えています。現在は10数名の生徒が在籍しています。より幅広い生徒への対応が出来るようになり、様々な教育活動を通じて更に九国の魅力を増していきます。

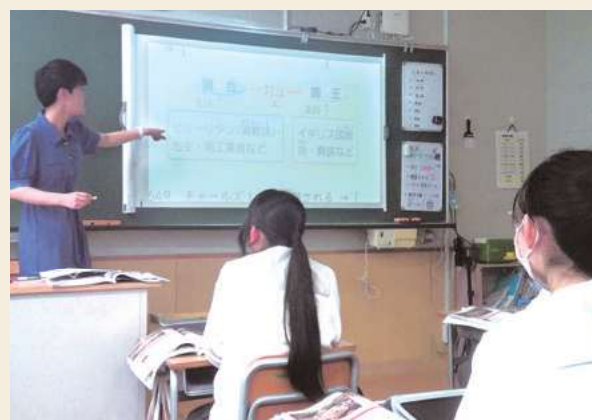
03 Junior High School

個性あふれる
文化祭が行われました



今年のテーマは「桜花爛漫」。これは、生徒全員の個性があふれる文化祭にしたいとの思いで、生徒会が設定しました。体育館のステージでは、作文コンテストなどの優秀作品や文化部の発表が行われました。教室では、部活動や学年での制作物、家庭科や美術など授業で作った作品、理科や社会科のレポートなど、付属中学校で取組んでいる学習活動の様子が展示されました。

電子黒板プロジェクター・
リニューアル！



付属中学校では2014年に電子黒板プロジェクターを設置し、授業や学級活動等さまざまな場面で活用しています。2018年にICT環境整備事業で2代目に置き換わり、今では生徒が使用するiPadとも連携させ、広く多くの場面で使われています。

今年、1年生の教室のプロジェクターが新型の3代目に更新されました。映像が鮮明になり授業が分かりやすくなったと生徒からも好評です。

学校法人 九州国際大学 令和7年度 決算状況

学校法人会計は「予算制度」が採用されており、会計年度毎に作成された予算に基づき教育活動等を実施しています。これらの諸活動の結果をあらわす令和7年度の本法人の決算状況について、事業活動収支計算書をもとに説明いたします。

この事業活動収支計算書は、当該年度の収支の均衡状態を明らかにすることを目的としており、経常的な収支である「①教育活動収支」、「②教育活動外収支」及び臨時的収支である「③特別収支」の3つの区分で構成されております。「①教育活動収支」における収入は39億6,624万円、支出は40億631万円となり、当該区分における教育活動収支差額は、4,007万円の支出超過となっています。「②教育活動外収支」における収入は1,800万円、支出は0円となり、当該区分における教育活動外収支差額は、1,800万円の収入超過となっています。「③特別収支」における収入は1,085万円、支出は1億1,343万円となり、当該区分における特別収支差額は1億258万円の支出超過となっています。これらを総じて、事業活動収入は39億9,509万円、事業活動支出は41億1,975万円となっています。

このように区分毎の収支を踏まえた本法人の決算は、基本金組入前当年度収支差額が1億2,465万円の支出超過となり、当年度収支差額は3億373万円の支出超過となっています。なお、本法人が保有する金融資産の増減について、令和8年3月末現在の次年度繰越支払資金等（有価証券10億151万円含む）は41億3,138万円となり、前年度末より1億6,530万円増加しました。「退職給与引当特定資産」は8億8,875万円で、学校法人会計基準に基づき当期末退職給与引当金計上額の100%を積み立てた金額となっております。「減価償却引当特定資産」は将来の施設設備の更新に備え、5,000万円を繰入れ19億6,475万円となっています。これらをあわせた金融資産残高は、前年度末と比較して1億9,591万円増加しています。

令和7年度は支出超過となりましたが、これは令和9年4月開設予定の看護学部設置に向けた施設整備や教育研究環境の充実をはじめとする先行的な投資によるものであり、また、学園の持続的な発展と教育の質向上を目指した中長期的な戦略投資を積極的に実施した結果によるものです。これらの支出は将来の学生確保や教育研究活動の更なる充実につながるものであり、本法人の将来の発展基盤を強化するための重要な取り組みとして位置付けています。

(注) 単位(万円)未満は四捨五入して表記しています。

事業活動収支計算書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目		予 算	決 算	差 異
① 教育活動収支	収入事業活動			
	学生生徒等納付金	2,514,552	2,497,483	17,069
	手数料	77,330	76,542	788
	寄付金	20,000	9,972	10,028
	経常費等補助金	1,193,529	1,215,243	△ 21,714
	付随事業収入	22,591	18,169	4,422
	雑収入	147,254	148,835	△ 1,581
	教育活動収入計	3,975,256	3,966,245	9,011
	支出事業活動			
	人件費	2,244,336	2,193,333	51,003
② 教育活動外収支	教育研究経費	1,376,840	1,403,275	△ 26,435
	管理経費	441,195	409,710	31,485
	徴収不能額等	0	0	0
	教育活動支出計	4,062,371	4,006,319	56,052
	教育活動収支差額	△ 87,115	△ 40,074	△ 47,041
	収入事業活動外			
	受取利息・配当金	16,636	18,002	△ 1,366
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	16,636	18,002	△ 1,366
	支出事業活動外			
③ 特別収支	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	16,636	18,002	△ 1,366
	経常収支差額	△ 70,479	△ 22,072	△ 48,407
	収入事業活動			
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	4,352	10,850	△ 6,498
	特別収入計	4,352	10,850	△ 6,498
	支出事業活動			
	資産処分差額	0	9,056	△ 9,056
④ 特別収支	その他の特別支出	103,976	104,375	△ 399
	特別支出計	103,976	113,431	△ 9,455
	特別収支差額	△ 99,624	△ 102,581	2,957
	[予備費]	10,000		10,000
	基本金組入前当年度収支差額	△ 180,103	△ 124,654	△ 55,449
	基本金組入額合計	△ 160,911	△ 179,077	18,166
	当年度収支差額	△ 341,014	△ 303,731	△ 37,283
	前年度繰越収支差額	△ 5,277,688	△ 5,277,688	0
	基本金取崩額	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△ 5,618,702	△ 5,581,419	△ 37,283
(参考)				
事業活動収入計		3,996,244	3,995,096	1,148
事業活動支出計		4,176,347	4,119,750	56,597

【語句説明】：事業活動収支計算書にのみ表れる主な科目

【事業活動収入】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金等収入のうち、負債とならず自己資金となる収入です。よって、借入金や貸付金回収、預り金（他に支払う為に一時的に金銭を受け入れたもの）や前受金（翌年度の活動における前年度入金分）など自己資金ではないものは表示されません。

その一方で、現物寄付など資金の受け入れではないものも事業活動収入となります。

【事業活動支出】

人件費、教育研究経費、管理経費等の支出をいい、学校法人の純資産の減少をもたらす支出のことです。そのため、固定資産取得に係る支出や借入金返済、貸付金支出等は事業活動支出とはなりません。引当金の繰入や減価償却などは事業活動支出になります。

【資産売却差額・資産処分差額】

不動産や有価証券などを売却した際の売却額と帳簿価額の差額をいいます。資産を売却した際、売価が資産の帳簿価格を上回った場合、その額を資産売却差額として計上します。資産を売却した際、売価が資産の帳簿価格を下回った場合、その額を資産処分差額として計上します。

【徴収不能額】

得るべき収入が徴収不能になった際、徴収不能引当金を設けていない場合やその額が徴収不能引当金残高を超えている場合に計上します。なお、本来得るべき収入のうち、その回収不能額を見もって引当金を設ける場合には、徴収不能引当金繰入額を計上します。

【その他の特別支出】

令和7年度の学校法人会計基準改正により、翌年度支給予定の賞与のうち当年度勤務分を「賞与引当金」として負債計上することが義務化・明確化されたため、令和7年度決算では初年度対応として「賞与引当金特別繰入額」103,976千円を計上しています。

【基本金組入額】

学校法人が教育研究活動を行っていくためには、校地・校舎・機器備品・図書・現預金などの資産を保有し、これを永続的に維持する必要があります。学校会計では、当該年度にこれらの資産の取得に充てた金額を基本金へ組入れる仕組みとなっています。この基本金の対象は、「学校法人会計基準」において、次の4項目に分類されています。

- 【第1号基本金】：設立当初に取得した固定資産、並びに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の拡大による規模の拡大及び教育の充実向上のために取得した固定資産の額。
- 【第2号基本金】：第1号の資産を将来取得するために充てる金銭その他の資産の額。
- 【第3号基本金】：基金として継続的に保持し、かつ運用する金銭その他の資産の額。
- 【第4号基本金】：恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額。

事業活動収入に対する各費目の占める割合



事業活動支出に対する各費目の占める割合



(注) 各項目の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計と一致していない場合や実際の計算書類と一致していない場合があります。

資金収支計算書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位：千円)

活動区分資金収支計算書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位：千円)

翌年度に入学する学生生徒等から受入れた授業料・入学金等。

貸付金の回収額。特定の目的のために積立てた預金（退職・高価償却）等を取り崩した額など。

収入として計上したが、未収となっているものや、前受金収入として前年度までに既に受入れている収入を差引くことにより、資金の収入額を調整するもの。

土地、建物、構築物等取得するための支出。

機器備品、図書、車両などを取得するための支出。

支出として計上したものの、未払いとなっているものや、前払金支払いとして前年度までに支払っている経費を差引くことにより、資金の支出額を調整すること。

収入の部	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,514,552	2,497,483	17,069
手数料収入	77,330	76,542	788
寄付金収入	20,000	9,972	10,028
補助金収入	1,193,529	1,221,893	△ 28,364
資産売却収入	0	40	△ 40
付随事業・収益事業収入	22,591	18,169	4,422
受取利息・配当金収入	16,636	18,002	△ 1,366
雑収入	143,330	145,775	△ 2,445
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	390,056	378,554	11,502
その他の収入	199,984	658,630	△ 458,646
資金収入調整勘定	△ 451,753	△ 475,200	23,447
前年度繰越支払資金	2,964,569	2,964,569	0
収入の部合計	7,090,824	7,514,429	△ 423,605
支出の部	予算	決算	差異
人件費支出	2,090,399	2,200,560	△ 110,161
教育研究経費支出	1,090,879	1,116,965	△ 26,086
管理経費支出	403,556	372,558	30,998
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	156,940	156,940	0
設備関係支出	81,428	81,303	125
資産運用支出	150,000	450,743	△ 300,743
その他の支出	36,393	74,258	△ 37,865
[予備費]	10,000	0	10,000
資金支出調整勘定	△ 22,625	△ 68,771	46,146
次年度繰越支払資金	3,093,854	3,129,872	△ 36,019
支出の部合計	7,090,824	7,514,429	△ 423,605

【語句説明】資金収支計算書にのみ表れる主な科目

【前受金収入】

翌年度の活動に対する収入をいいます（新入生の入学金・授業料等）。

【資金調整勘定（資金収入調整勘定、資金支出調整勘定）】

資金収入調整勘定とは、当年度の諸活動に対する収入で前年度以前に資金の収入になったもの及び当年度の諸活動に対する収入で翌年度以降に資金が受け入れられるものです。資金支出調整勘定は、当年度の諸活動に対応する支出で前会計年度以前において支払資金の支出となったもの及び当年度の諸活動に対応する支出で翌会計年度以後において支払資金の支出となるべきものをいいます。

【語句説明】資金収支計算書及び事業活動収支計算書に共通して表れる主な科目

【学生生徒等納付金】

在学又は入学の条件として、所定の額を義務的にかつ一律に納付すべきものです。授業料、教育充実費、入学金等の学生・生徒から納入されるもので、収入のうち最も大きな割合を占めます。

【手数料】

入学試験、転入学試験等のために徴収する収入です。具体的には、入学検定料、試験料、証明書発行手数料をいいます。

【経常費等補助金】

国・地方公共団体及びこれに準ずる機関から交付される補助金をいいます。

【受取利息・配当金】

預貯金や有価証券等の利息・配当金収入をいいます。

【付随事業収入】

食堂、売店、寄宿舎等の補助活動収入、外部から委託を受けて行う受託事業収入などをいいます。

【雑収入】

学校法人に帰属する上記の各収入以外の収入をいいます。これには、私学事業団等から退職金資金その他の交付金を受けたときの収入も含まれます。

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	2,497,483
手数料収入	76,542
特別寄付金収入	9,972
経常費等補助金収入	1,215,243
付随事業収入	18,169
雑収入	145,775
教育活動資金収入計	3,963,184
人件費支出	2,200,560
教育研究経費支出	1,116,965
管理経費支出	372,160
教育活動資金支出計	3,689,685
差引	273,500
調整勘定等	106,128
教育活動資金収支差額	379,627
科 目	金 額
施設設備寄付金収入	0
施設設備補助金収入	6,650
施設設備売却収入	40
減価償却引当特定資産取崩収入	300,000
施設整備等活動資金収入計	306,690
施設関係支出	156,940
設備関係支出	81,303
減価償却引当特定資産繰入支出	350,220
施設整備等活動資金支出計	588,463
差引	△ 281,772
調整勘定等	8,673
施設整備等活動資金収支差額	△ 273,100
小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額）	106,527
科 目	金 額
退職給与引当特定資産取崩収入	120,477
修学・研修旅行費預り資産取崩収入	37,010
預り金受入収入	21,687
立替金回収収入	96
小計	179,270
受取利息・配当金収入	18,002
その他の活動資金収入計	197,272
退職給与引当特定資産繰入支出	100,524
仮払金支払支出	403
修学・研修旅行費預り金支払支出	37,191
小計	138,117
過年度修正支出	398
その他の活動資金支出計	138,515
差引	58,756
調整勘定等	19
その他の活動資金収支差額	58,776
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）	165,303
前年度繰越支払資金	2,964,569
翌年度繰越支払資金	3,129,872

【人件費】

専任教職員、非常勤講師などに支給する本俸・期末手当・その他の手当・所定福利費、理事及び監事に支払う報酬などをいいます。

【教育研究経費】

教育研究のために支出する経費をいいます。

【管理経費】

総務・人事・経理業務や学生募集のための支出などで、教育研究以外の経費をいいます。

学校法人会計について

学校法人はその教育研究活動を行うにあたって必要な施設や設備、経営に必要な財産を持つために、国または地方公共団体等から補助を受けています。これら補助金の交付を受けている学校法人は私立学校振興助成法の定めにより「学校法人会計基準（昭和46年文部省令制定）」という会計ルールに従い計算書類を作成し、公認会計士または監査法人による監査を受けて、所轄庁に届け出ることが義務付けられています。

このように、公共性・安定性・継続性が求められる私立学校においては、中長期的にわたって持続的な経営を維持するために収支均衡を図るべく、適正な会計処理を行うための統一的な学校法人会計基準が定められています。なお、令和7年4月、学校法人会計基準が改正され、翌年度支給予定の賞与のうち当年度勤務分を「賞与引当金」として負債計上することが義務化・明確化されました。

企業会計と学校法人会計の違い

教育・研究活動を事業目的とする学校法人会計は、学校法人の持続的な発展と教育研究活動の円滑な遂行のために、「教育水準の維持向上」、「収支均衡」、「予算主義」という3つの概念に基づき運営され、収支の均衡と財政の状態を正しく捉えることを目的としています。

一方、営利の追求を事業目的としている企業会計の考え方は、損益が重視され、収益と費用を正しく捉え、営業年度の正しい損益を計算し、企業の財政状態を知ることによって、より高い収益を追求することを目的としています。

このように、一般企業は利益を得る目的で存在していますが、学校法人は教育研究活動を目的とした非営利法人です。法人の存在理由が異なるため、会計の目的が異なります。

計算書類について

（1）資金収支計算書

当会計年度の諸活動に対応するすべての資金の動きを記録することによって収入と支出の内容を明らかにし、当該年度の支払資金（現金及び預貯金）の期末を表すものです。

※活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の決算額を「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」の3つの活動区分で表示し、経営判断に資する財務情報を提供するものです。

活動区分資金収支計算書は、予算と決算との差異を表示する制度（様式）ではないため、予算書の作成は求められていません。

（2）事業活動収支計算書

当会計年度の事業活動収支の内容を明確にし、事業活動収支の均衡を表すものです。計算書の構造は、本業である教育・研究活動（教育活動収支）と財務活動で生じる利息等（教育活動外収支）、資産売却等の臨時的収支（特別収支）に区分され、各区分の収支差額から経営状態の健全性を把握することができます。

（3）貸借対照表

当会計年度末における資産・負債・純資産（基本金及び収支差額）の状況を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

貸借対照表

(令和8年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部				負債の部			
科目	R7	R6	増減	科目	R7	R6	増減
固定資産	17,211,920	17,272,099	△ 60,180	固定負債	895,907	908,711	△ 12,804
● 有形固定資産	13,318,882	13,409,328	△ 90,446	● 退職給与引当金	891,896	908,711	△ 16,815
● 土地	5,270,389	5,270,389	0	流動負債	679,606	536,102	143,504
● 建物	5,182,134	5,295,464	△ 113,330	● 未払金	63,863	35,962	27,901
● 構築物	529,807	527,448	2,359	● 前受金	378,554	357,951	20,603
● 教育研究用機器備品	372,244	365,134	7,110	● 預り金	76,138	54,451	21,687
● 管理用機器備品	52,430	46,748	5,682	● 貸与引当金	110,504	0	110,504
● 図書	1,890,437	1,882,259	8,178	● 修学・研修旅行費預り金	50,547	87,738	△ 37,191
● 車両	19,516	16,055	3,460	負債の部合計	1,575,514	1,444,813	130,700
● 建設仮勘定	1,925	5,830	△ 3,905	純資産の部			
● 特定資産	2,853,509	2,823,243	30,266	科目	R7	R6	増減
● 退職給与引当特定資産	888,757	908,710	△ 19,953	● 基本金	24,517,314	24,338,237	179,077
● 減価償却引当特定資産	1,964,752	1,914,533	50,220	● 第1号基本金	24,246,314	24,067,237	179,077
● その他の固定資産	1,039,529	1,039,529	0	● 第4号基本金	271,000	271,000	0
● 電話加入権	3,203	3,203	0	● 繰越収支差額	△ 5,581,419	△ 5,277,688	△ 303,731
● 有価証券	1,001,512	1,001,512	0	● 翌年度繰越収支差額	△ 5,581,419	△ 5,277,688	△ 303,731
● 預託金	34,815	34,815	0	純資産の部合計	18,935,896	19,060,549	△ 124,654
流動資産	3,299,490	3,233,263	66,226	負債及び純資産の部合計	20,511,409	20,505,362	6,047
● 現金預金	3,129,872	2,964,569	165,303				
● 未収入金	117,249	179,360	△ 62,111				
● 貯蔵品	221	301	△ 80				
● 修学・研修旅行費預り資産	50,395	87,405	△ 37,010				
● 前払金	714	897	△ 183				
● 仮払金	551	148	403				
● 立替金	487	584	△ 96				
資産の部合計	20,511,409	20,505,362	6,047				

【有価証券】

国債・地方債・社債・金融債・株式などがあり、会計年度末後1年を超えて保有する目的のものは「その他の固定資産」に計上します。一時的（短期的）な保有を目的とするものは、「流動資産」に計上します。

【現金預金】

現金・銀行の各種預金、郵便貯金などです。「現金預金」の額は、資金収支計算書の「次年度繰越支払資金」と一致します。

【借入金】

長期借入金は、返済期限が年度末後1年を超えて到来する借入金で「固定負債」に計上します。短期借入金は、返済期限が年度末後1年以内に到来する借入金で「流動負債」に計上します。

【預り金】

給料・報酬などにかかる源泉所得税、住民税など学校法人の事業活動収入にならない、他に支払うための一時的な金銭の受入額をいいます。

【繰越収支差額】

当期以前の各年度の事業活動収入から事業活動支出を差し引いた差額の累計額です。

【語句説明】：貸借対照表に表れる主な科目

【○○○引当特定資産】

施設の増設や改築、機器備品その他の設備の拡充や買い替え、退職金の支払いなど、将来の特定の支出に備えるために資金を留保した場合に設ける勘定科目です。このような資金留保は、経営方針に基づく長期的な資金計画によって実行されます。

事業活動収支計算書（経年比較）

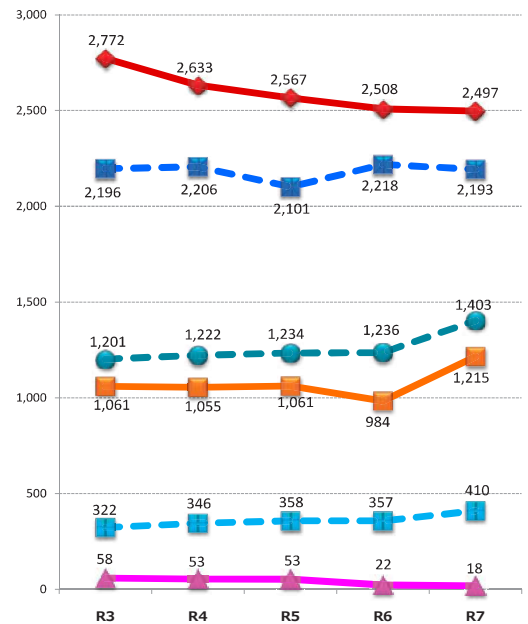
(単位：千円)

科目	R3	R4	R5	R6	R7
収入					
学生生徒等納付金	2,772,454	2,633,069	2,566,570	2,508,176	2,497,483
手数料	70,797	71,304	76,514	77,571	76,542
寄付金	15,834	6,710	11,324	9,668	9,972
経常費等補助金	1,060,503	1,054,534	1,061,486	983,677	1,215,243
付随事業収入	57,993	53,336	52,780	22,491	18,169
雑収入	144,582	164,226	106,233	228,905	148,835
教育活動収入計	4,122,164	3,983,179	3,874,908	3,830,488	3,966,245
支出					
人件費	2,196,165	2,206,244	2,101,283	2,218,110	2,193,333
教育研究経費	1,201,326	1,222,010	1,233,894	1,236,151	1,403,275
管理経費	321,957	345,600	357,759	357,428	409,710
徴収不能額等	0	0	0	0	0
教育活動支出計	3,719,448	3,773,854	3,692,936	3,811,690	4,006,319
教育活動収支差額	402,716	209,324	181,973	18,799	△ 40,074
収入					
受取利息・配当金	4,201	3,865	5,329	8,423	18,002
その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
教育活動外収入計	4,201	3,865	5,329	8,423	18,002
支出					
借入金等利息	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	4,201	3,865	5,329	8,423	18,002
経常収支差額	406,917	213,189	187,302	27,221	△ 22,072
特別収入					
資産売却差額	0	0	0	0	0
その他の特別収入	62,186	46,976	61,795	7,076	10,850
特別収入計	62,186	46,976	61,795	7,076	10,850
特別支出					
資産処分差額	2,202	1,967	16,483	3,517	9,056
その他の特別支出	13,774	0	178	0	104,375
特別支出計	15,976	1,967	16,661	3,517	113,431
特別収支差額	46,209	45,009	45,134	3,559	△ 102,581
基本金組入前当年度収支差額	453,126	258,198	232,436	30,780	△ 124,654
基本金組入額合計	△ 225,124	△ 225,727	△ 102,741	△ 191,495	△ 179,077
当年度収支差額	228,002	32,470	129,695	△ 160,714	△ 303,731
前年度繰越収支差額	△ 5,894,247	△ 5,666,245	△ 5,633,774	△ 5,116,974	△ 5,277,688
基本金取崩額	0	0	387,106	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 5,666,245	△ 5,633,774	△ 5,116,974	△ 5,277,688	△ 5,581,419
(参考)					
事業活動収入計	4,188,551	4,034,019	3,942,033	3,845,987	3,995,096
事業活動支出計	3,735,425	3,775,822	3,709,597	3,815,206	4,119,750

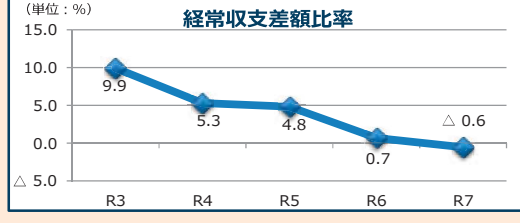
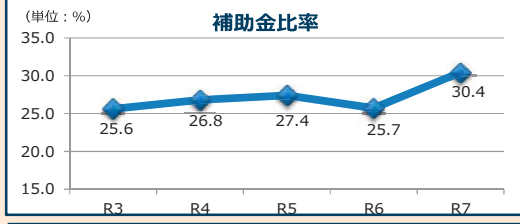
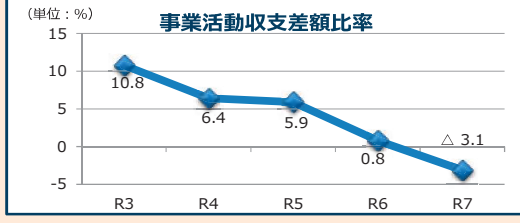
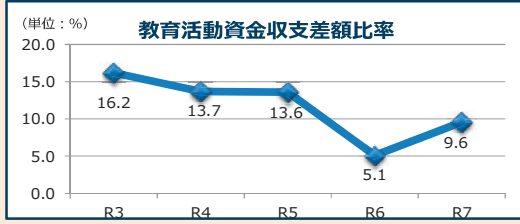
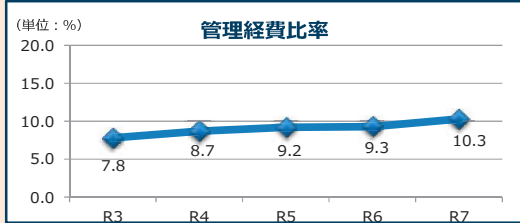
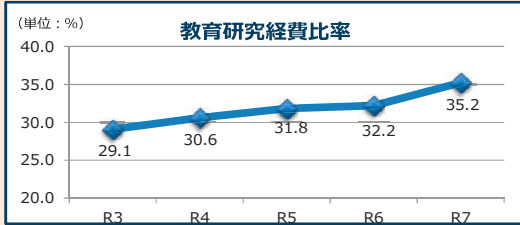
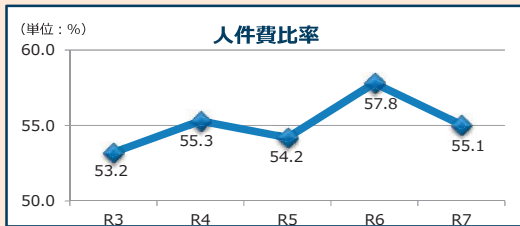
(注) 各項目の数値は、単位未満を四捨五入しているため、合計と一致していない場合や実際の計算書類と一致していない場合があります。

事業活動収支の主な科目の推移

(単位：百万円)



実線 (—) は、収入科目、破線 (---) は、支出科目です。



貸借対照表関係財務比率

No.	比 率	算 式	R3	R4	R5	R6	R7	評価
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	83.2%	83.3%	83.2%	84.2%	83.9%	▼
2	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	68.6%	67.3%	65.9%	65.4%	64.9%	▼
3	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	12.9%	13.3%	13.7%	13.8%	13.9%	△
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	16.8%	16.7%	16.8%	15.8%	16.1%	△
5	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	4.7%	4.7%	4.6%	4.4%	4.4%	▼
6	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	3.0%	2.8%	2.6%	2.6%	3.3%	▼
7	内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{総負債}}{\text{総資産}}$	22.5%	23.9%	25.9%	26.1%	26.4%	△
8	運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.6年	1.7年	1.8年	1.8年	1.7年	△
9	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	92.2%	92.5%	92.8%	93.0%	92.3%	△
10	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	△ 28.2%	△ 27.7%	△ 25.0%	△ 25.7%	△ 27.2%	△
11	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	90.2%	90.1%	89.6%	90.6%	90.9%	▼
12	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	85.8%	85.7%	85.4%	86.5%	86.8%	▼
13	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	554.7%	593.1%	645.7%	603.1%	485.5%	△
14	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	7.8%	7.5%	7.2%	7.0%	7.7%	▼
15	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	8.4%	8.1%	7.7%	7.6%	8.3%	▼
16	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	892.3%	849.1%	942.3%	828.2%	826.8%	△
17	退職給付引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給付引当金}}{\text{退職給付引当特定資産}}$	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%	△
18	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	△
19	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価額(図書を除く)}}$	60.5%	61.6%	62.8%	63.9%	63.9%	—
20	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	54.7%	55.8%	58.0%	58.4%	58.5%	△

事業活動収支計算書関係比率

No.	比 率	算 式	R3	R4	R5	R6	R7	評価
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	53.2%	55.3%	54.2%	57.8%	55.1%	▼
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	79.2%	83.8%	81.9%	88.4%	87.8%	▼
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	29.1%	30.6%	31.8%	32.2%	35.2%	△
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	7.8%	8.7%	9.2%	9.3%	10.3%	▼
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	▼
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	10.8%	6.4%	5.9%	0.8%	3.1%	△
7	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	94.2%	99.1%	96.6%	104.4%	108.0%	▼
8	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	67.2%	66.0%	66.1%	65.3%	62.7%	—
9	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.6%	0.6%	1.4%	0.3%	0.2%	△
	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.4%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	△
10	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	25.6%	26.8%	27.4%	25.7%	30.4%	△
	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	25.7%	26.4%	27.4%	25.6%	30.5%	△
11	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	5.4%	5.6%	2.6%	5.0%	4.5%	△
12	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	8.3%	8.7%	8.8%	8.0%	7.7%	—
13	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	9.9%	5.3%	4.8%	0.7%	0.6%	△
14	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	9.8%	5.3%	4.7%	0.5%	1.0%	△

(注) 「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

「経常支出」=教育活動支出計+教育活動外支出計

活動区分資金収支計算書関係比率

No.	比 率	算 式	R3	R4	R5	R6	R7	評価
1	教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	16.2%	13.7%	13.6%	5.1%	9.6%	△

(注) 教育活動資金収支差額=教育活動資金収入計-教育活動資金支出計+教育活動調整勘定等

(注) 財務比率の評価等について

財務比率の評価は、各学校法人の内部事情等を個別に判断しなければ、一概にその良否をいえませんが、財務比率の高低の評価を以下のとおりとしています。

【△: 高い値が良い ▼: 低い値が良い —: どちらともいえない】

(注) 貸借対照表関係比率に表示される項目の説明

- ① 運用資産=特定資産+有価証券(固定資産)+有価証券(流動資産)+現金預金
- ② 外部負債=借入金+学校債+未払金+手形債務
- ③ 要積立額=減価償却累計額+退職給付引当金+第2号基本金+第3号基本金

学校法人 九州国際大学

■大学 法学部／法律学科 現代ビジネス学部／地域経済学科・国際社会科学部
■大学院 法学研究科
■付属高等学校 全日制課程(鍵開クラス/S特進クラス/特進クラス/進学クラス/トッパスリーディングクラス)
■付属中学校 通信制課程 普通科(単位制)



学園広報誌 九国の扉 ～キョウトビ～
Vol.24/2026
発行日/2026年9月30日
■発行 学校法人九州国際大学
〒805-8513 北九州市八幡東区平野2-5-1
TEL: 093-671-8900 FAX: 093-671-9032

2030年の創起100周年に向けて

Habataku みらい募金

学園へのご支援をお考えのみなさまへ

地域とつながりながら、未来へ羽ばたくために

本学園では建学の精神でもある「塾的精神」に基づき、開学以来の使命である北九州地域の発展や活性化に寄与することができる人材育成に力を注いでおります。2030(令和12)年の創起100周年に向けて、学生や生徒たちが地域とつながりながらさらに大きく羽ばたいていくことを願い、新たな寄附金制度「Habatakuみらい募金」を設置いたしました。今後も本学園を支えてくださるみなさまから、より一層信頼され、評価をいただけますよう教職員一丸となって教育改革に邁進してまいります。募金のお主旨にご賛同いただき、温かいご支援、ご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



学校法人 九州国際大学
理事長 北村 昌之

Habataku みらい募金

◎募集期間/2028年3月31日まで ◎目標額/1億円

〔募金の活用法について〕

みなさまからいただいた浄財は、希望されるサポート内容に充当させていただきます。

1 教育・研究サポート

特色ある教育及び研究を
充実させるための環境整備。

2 就職・進学サポート

就職実績、進学実績の
質的・量的向上に向けた取り組み。

3 地域連携サポート

地域の発展に寄与し、
地域社会に貢献できる人材育成。

4 国際人育成サポート

国際人に必須の語学力強化、
海外協定校との異文化交流など。

5 課外活動サポート

友と切磋琢磨する時間を育む
体育系・文化系部活動の活性化。

6 施設・設備拡充サポート

安全で充実した学校生活のための
施設・設備の拡充と整備。

7 使途指定募金サポート

〈思いをカタチに。支援したいコトやモノをご指定いただける〉

新学部開設を支援したい、特定のクラブ活動の全国大会出場を応援したい、留学する学生・生徒の支援をしたいなど、使途や目的を指定してご支援いただくオーダーメイド感覚の募金です。

※とくに使途の指定がない場合は教育研究活動に充当させていただきます。

※詳細は、「学校法人九州国際大学ホームページ」をご確認ください。 <https://www.kiu.ac.jp/hq/contribution/>

お問い合わせ先

学校法人 九州国際大学 法人事務局寄附金担当

〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目5番1号

TEL: (093)671-8900 FAX: (093)671-9032

E-mail: kifu@office.kiu.ac.jp

九州国際大学 募金 検索

